

細菌感染が原因ではない、特殊な膀胱炎

間質性膀胱炎について



お答え
ふくやま北泌尿器科・内科
菱川賢 院長

■プロフィール
宮崎大学医学部卒業。新行橋病院・原三信病院・九州がんセンター・福山泌尿器病院に勤務。平成28年8月、「ふくやま北泌尿器科・内科クリニック」を開業。泌尿器科専門医・指導医。がん治療認定医<メモ> ☎084(961)3520 (御幸町下岩成338) <http://www.fk-clinic.jp>

「ふくやま北泌尿器科・内科クリニック」の菱川賢院長に、間質性膀胱炎について聞きました。

Q 間質性膀胱(ぼうこう)炎という特殊な膀胱炎があるそうですね。

A よく耳にされる膀胱炎は細菌感染が原因。排尿時の痛み・残尿感・頻尿が主な症状で、適切

な抗生剤を5日間も内服すれば良くなります。そういった一般的な膀胱炎とは異なる間質性膀胱炎という病気があります。

Q 細菌ではなく何が原因のですか。

A はっきりした原因は分かっています。膀胱上皮のバリア機能が壊れたり、炎症を誘発する細胞が活性化したり、神経が悪さをしている等いろいろ言われています。

A 一般的には、頻尿、尿意の亢進(こうしん)、尿が充滿した時の下腹部痛など。下腹部痛は排尿すると軽減するのが大きな特徴で、痛みを回避するために頻尿になるともいわれます。ただし、必ず痛みが出るわけではなく、注意が必要です。

Q どんな時に間質性膀胱炎を疑いますか。

A 抗生剤を服用しても良くならない・検尿では異常がない・過活動膀胱の薬を内服していても良くならない・我慢するとおなかが痛い…という患者さんの訴えがヒントになります。そういった方にはまず排尿記録を書

記録を見ると多くの方が頻尿で、1回の尿量が少ないのが特徴です。

Q 診断は？

A まず似たような症状を持つ疾患を否定することが大切です。例えば、膀胱がんなどの悪性新生物、膀胱炎などの炎症性疾患、過活動膀胱、尿路結石、婦人科疾患などです。間質性膀胱炎を疑った場合には膀胱鏡検査が勧められます。間質性膀胱炎特有のハンナ病変の有無を確認できるからです。この有無で治療法が異なります。また、膀胱鏡検査で膀胱が拡張されることにより症状が緩和する場合もあります。

Q 治療法は？

A 内服療法ではアミトリプチリン(抗うつ薬)が使用されることがあります。また、入浴や運動によりストレスを減らすこと、コーヒー・アルコール・かんきつ類・香辛料などの摂取を減らすことで症状が緩和することがあります。先述のように膀胱鏡をすることが治療になることもあります。ハンナ病変を認めた症例では、ジメチルスルホキシドの膀胱内注入療法が適応になります。膀胱炎が治らない、トイレが近い、下腹部が痛むなどの症状がある方は、最寄りの泌尿器科の受診をお勧めします。